

＜今年度の諸状況＞

令和4年度小金井市教育委員会研究奨励校研究発表の成果と課題を踏まえた教科の特性を生かし、ICT機器を活用した授業づくり
コミュニティスクール(地域運営協議会制度)2年次としての活動の充実と各種ボランティア活動の地域学校協働活動への位置づけの明確化
「主体的・対話的で深い学び」の充実 運動会と音楽会の開催 行先を変更した5年大房岬移動教室の実施 6年清里林間学校での森林体験活動の実施
在籍児童数:875名 学級数:26学級(1年:4学級 2年:5学級 3年:4学級 4年:5学級 5年:4~5学級 6年:4学級) 大空教室(特支教室)
校長・副校長・教員等44名 産休育休教員1名 スクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)・学校図書館補助員・支援員・専門員等8名
事務主事3名 用務主事2名 栄養士1名 施設管理員・早朝管理員4名

国: 日本国憲法や教育基本法等の教育関連法 学習指導要領 など 都: 教育施策大綱、東京都教育ビジョン第4次	＜学校教育目標＞	※ 今年度の重点目標
	考える子供※ 仲良くする子供 働く子供 体をきたえる子供	小金井市教育委員会 教育目標 教育方針 第3次明日の小金井教育プラン

＜めざす学校像＞	全教職員が子供たちのために力を合わせる学校	子供たち自身が自らの健康と安全を考えながら明るく元気に学ぶ学校
＜めざす教師像＞	自らの授業力を高めようと自己研さんに努める教師	＜めざす職員像＞
		自らの役割と責任を果たし教育活動を支える職員

＜学校教育目標を達成するための主な取組＞

- | | |
|--|--|
| <p>1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通した考える子供の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度小金井市教育委員会研究奨励校 研究主題「教科の特性を生かした授業づくり～ICTの活用を通して～」の成果と課題を踏まえた授業づくりの推進 ○学習指導要領の趣旨を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善 ○子供一人に1台ずつ貸与されたタブレットにある多様なアプリケーションを活用した「個別最適な学び」とペアやグループなどの直接対話を中心とした「協働的な学び」の充実 ○よりよい学校や地域、環境をつくることを子供たち自身が考え、実践する取組の推進 | <p>4 健康教育・安全教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国・都・市の感染症対策のガイドラインに基づく教育課程の編成と実施 ○手洗い、二方向換気などの基本的な感染症対策の徹底と熱中症対策、教育活動の効果等とのバランスを考えた子供たちへの指導の充実 ○日常の学級指導や毎月の避難訓練、セーフティ教室などを通した自然災害への減災・防災意識の醸成や不審者対応、交通事故の未然防止など、「身を守る方法を考え、自分の身は自分で守る」という安全意識の向上 |
| <p>2 コミュニティスクールとしての保護者や地域との連携・協働の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会(年5回)への教育活動の報告と委員からの助言の学校運営への反映 ○学校の教育活動と地域学校協働活動との連携・協働による児童の育成 ○学校日より「けやき」のスクールパスによるメール送信、「デジタル出欠席検温カード」や「学校評価保護者アンケート」などの電子化など、簡易にやりとりができるICTの活用 | <p>5 ふるさと意識の向上と愛校心の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさと小金井への理解を深め、ふるさと意識を醸成する学習活動の展開 ○地域の教育資源「もの・ひと・こと」や学習環境を積極的に活用した授業づくり ○三小に在籍していることに誇りをもち、これまで培ってきた本校のよき伝統を継承し、さらによりよい学校にしようとする態度の育成 |
| <p>3 豊かな心の育成と体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○あらゆる教育活動を通じて行う豊かな心の醸成と「認め、励まし、支援する」といった自己肯定感を高める子供たちへの教職員のかかわりの継続 ○いじめや不登校などの課題の早期発見と早期対応、関係者機関との連携 ○SCによる5年生全員面接や児童や保護者への相談とSSWの活用を通した家庭との連携 ○毎週金曜日の朝読書と年2回の読書旬間を活用した読書活動の充実 ○外遊びの奨励や大縄週間、持久走旬間等を通した子供たちの体力向上 | <p>6 共生社会の実現に向けた特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育コーディネーター3名を中心とした組織的な特別支援教育の推進 ○大空教室との連携校内委員会(毎月1回)、特別な支援が必要な児童への共通理解を図る校内委員会(毎月1回)、生活指導夕会(毎週金曜)、ケース会議の開催を通した教職員の情報共有と課題解決への方策の検討と組織的な対応、関係機関との連携 ○大空教室の巡回指導教員や特別支援教室専門員、生活指導支援員を活用した指導の充実 ○全教職員によるLGBTQの理解と対応 ○違いを認め合い、尊重し合う教育の推進 |